

5-2-2 短期大学教育改革ICT戦略会議

<事業計画>

短期大学のキャリア教育の改善を促進するため、「短期大学就業力コンソーシアム構想」の実現に向けて意見を整理し、短期大学間によるICTを活用した連携の仕組みを検討する。

<事業の実施結果>

「短期大学会議教育改革ICT戦略運営委員会」を継続設置して短期大学教育改革ICT戦略会議を開催するとともに、短期大学就業力コンソーシアムの実現に向けて準備を行った。以下に、委員会の活動状況について報告する。

短期大学会議教育改革ICT運営委員会

平成25年6月28日、7月12日、12月25日に4名又は5名が出席し、3回開催した。短期大学の就業力育成を促進するため、全国の短期大学を対象に「短期大学教育改革ICT戦略会議」を実施し、短期大学就業力コンソーシアムの仕組みを提案し意見を求めた。その上で加盟校のニーズ調査の意見も踏まえて最終的に仕組みを確認し、平成26年度からの開始に向けて参加募集を行った。

(1) 開催計画の策定

短期大学教育の再構築を目指して、地域社会との連携による教育の工夫や教学マネジメントの在り方について実践事例を通じて探究するとともに、社会のニーズと教育とのマッチングを行い、振り返りと改善が行えるよう、卒業生アンケートの情報を短期大学間で共有する仕組みとして「短期大学就業力コンソーシアム」を具体化して提案し、アンケート活用の実践例も踏まえながら、コンソーシアム実現に向けた意見交換を行うことを開催趣旨として、以下の通り開催要項を策定した。

平成25年度 短期大学教育改革ICT戦略会議開催要項

日時：平成25年9月4日（水） 13:00～16:00

場所：アルカディア市ヶ谷（東京、私学会館）

【開催趣旨】

教育の質的転換が国・社会から求められており、それを着実に実行することが短期大学の喫緊の課題となっている。中央教育審議会では来年度から短期大学士課程の在り方が検討されることになっており、短期大学教育の再構築に向けた指標づくりが開始される。そのような中で、短期大学固有の地域に根差した教育について点検・評価・改善を行い、社会が求める教育への仕組みづくりや教育方法の工夫など教育カリキュラムと教学マネジメントの問題に対応していかなばならない。

そこで本会議では、教育の再構築に欠かせない地域社会との連携による教育の工夫と、学生の学修行動のプロセスを踏まえた教学マネジメントの在り方について事例を紹介するとともに、短期大学の就業力を高めるためのコンソーシアム構想を通じて人材育成の強化策を探求したい。

【開会挨拶】 短期大学会議教育改革ICT戦略運営委員会 戸高 敏之 委員長

【事例紹介1】 「SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した地域連携教育」

大分県立芸術文化短期大学情報コミュニケーション学科講師 安倍 尚紀 氏

地域貢献研究会嘱託研究員 成田 誠 氏

全学科目「サービスマネジメント」では、学生自らの行動に基づいて実践的スキル(社

会人力)を身に付けさせることを目指して、地域への取材、記事作成、SNSへの投稿という学びの過程を可視化し、学修意欲向上や自己分析、教員によるきめ細かな指導を可能にしている。教育のツールとしてSNSを活用する意義や今後の課題を紹介する。

【事例紹介2】「学修ポートフォリオを活用したキャリア形成支援の展開」

実践女子短期大学 英語コミュニケーション学科主任 武内 一良 氏
キャリアセンタ課長 鮫嶋 暢宏 氏

学修ポートフォリオを活用することで、学生自身がキャリア教育で学んだことや就職活動を通じて得た活動記録を振り返りさせる。さらに学生だけでなく、学生を指導する立場の教職員にとっても、学生が積み上げてきた学修ポートフォリオの活動記録を活用することで、キャリア指導を効果的に行うことを可能にしている現状を紹介する。

【事例紹介3】「目標管理シートによる自学自律学習とサポーターによる個人指導」

戸板女子短期大学 キャリアセンター部長 坂 勇次郎 氏

短期大学士として社会人に必要な対人力、社会力、家庭力を養成するためのプログラムを授業と連携させた全学的な取り組みである。目標管理シートの作成と個別指導、活動の振り返りをするための個人面接、教員・アドバイザー・サポーターなど指導者の指導力強化の研修を通じて学生満足度向上を目指している事例を紹介する。

【全体討議】「短期大学就業力コンソーシアム構想の具体化」

社会的・職業的に自立できる就業力を身に付けた人材育成を組織として強力に展開することが必要となっている。それには、常に教育を見直し、社会とのマッチングを意識して短期大学教育に取り組むことが不可欠となっている。そこで、実社会で多様な職業に従事する卒業生のリアルな情報を収集・公表することで、短期大学として取り組むべき課題を洗い出すとともに、学生に対して学びの動機づけを与える仕組みを構築することを目指して、「短期大学就業力コンソーシアム構想」を提案し、アンケート結果の効果的な活用事例を紹介し、構想の具体化に向けた意見交換を行いたい。

<卒業生アンケート活用事例> 鹿児島女子短期大学教養学科教授 大重 康雄 氏

<短期大学就業力コンソーシアム構想について>

短期大学会議教育改革ICT戦略運営委員会委員
自由が丘産能短期大学能率科教授 豊田 雄彦 氏

<討議>

(2) 開催結果

① 参加者は25短期大学から35名の参加があった。

3短期大学からの取り組み事例から、SNS利用による地域連携教育は、社会から直接評価を受けることで、学修意欲の向上や自己分析につながることで、学修ポートフォリオの導入は、学生に学びや就職活動を振り返らせ、きめ細かな教育や支援が可能となること、振り返りの目標管理シート作成とサポーターによる指導・面談では、サポーターの指導力強化の研修が欠かせず、シートや面談記録データ共有化でより充実した指導が可能になることが確認できた。

② 卒業生アンケート活用例では、短大の学修で不足している点は一般的な知識、積極性や行動力であることがわかり、アンケート結果を踏まえて、学長のリーダーシップを発揮しながら企業との関係強化や教員の質向上に力を入れ、卒業生の体験談などが聞ける教育プログラムの開発、基礎科目やキャリア科目の充実、学びから学生生活までのきめ細かな支援体制など、様々な改革を行っていること、アンケート実施にはコストがかかるが改革への大きな動機付けになることなどが確認できた。

③ 卒業生から短期大学教育への意見をICTを活用して収集・分析し、教育の振り返りを行う仕組みとして「短期大学就業力コンソーシアム」を提案し、参加のメリットとして、参加校の回答情報を合わせて業種別に集計するため、自校の結果と比較でき

教育改善に関する有力な情報を得られること、その他にアンケート項目、実施方法など具体的に説明したところ、参加者から賛同が得られた。

なお、開催結果の詳細は巻末の事業報告の附属明細書【2-10】を参照されたい。

(3) 短期大学就業力コンソーシアム実現に向けた準備

- ① 短期大学教育改革ICT戦略会議でのコンソーシアム提案に向け、各短期大学におけるコンソーシアムの必要性をあらかじめ確認するため、6月に加盟校97校を対象にニーズ調査を実施したところ、51校から回答があり、その内コンソーシアムによる卒業生アンケートの活用を「希望する」は45%、「検討中・未定」8%、「希望しない」47%であった。希望する意見と希望しない意見がほぼ同じであることから、短期大学教育改革ICT戦略会議で最終的に必要性を確認した上で、実施について検討することにした。
- ② 短期大学教育改革ICT戦略会議でコンソーシアムについて賛同が得られたことから、平成26年度から本協会の支援を受けて活動を実験的に開始することにし、卒業生へのアンケート項目、実施方法、スケジュールの見直しを行い、12月26日付で加盟校に参加募集の案内を送付した。

